

# 「語いもんそ」

Vol. 6 平成20年6月5日発行

この通信誌は、宝山ホールで活動されているボランティアスタッフによって発行されています。

5月3日(土・祝)

京フィルとあそぼう!ファミリーコンサート

午前の部 幼児向け(0歳~)

「はじめてのクラシックコンサート」



今日を楽しみにしていた0歳からの子ども達が本日の主役です。

司会は、京都フィルハーモニー室内合奏団のソプラノ歌手で、しまざきまさこさん。

まず今日前半に演奏される、クラシックの名曲を紹介。

中盤は、今日演奏した、弦楽器・木管楽器・金管楽器

打楽器の名前、特徴、音色の違いなどを詳しく説明され、子ども達も本物の音色に感動、感激。

そして今日入場するとき、子ども達全員に配られたマラカス(宝山ホール職員の方々の手作りマラカス)とオーケストラの合奏の時間。

会場をセンターから左右に分け、それぞれ違ったマラカスのリズムをとる指導を受け、いよいよ開始。曲は『南の島のハメハメハ大王』、オーケストラと初めてのコラボレーションは、子ども達にもなじみの曲とあって、会場全体がひとつになり演奏もバッチリきまり、会場に大きな拍手が鳴り響きました。

後半はドラムマーチで6名のメンバーが会場中央に登場し、ディズニーメドレーの演奏でスタート。手拍子も自然に出て大いに盛り上がりました。次に童謡メドレー、オーケストラとソプラノ歌手の生の

演奏に子ども達は目を輝かせて聴き入っていました。

フィナーレは、『となりのトトロ』を、しまざきさんと一緒に歌いました。

アンコールの拍手が鳴り止まず、アンコール曲は『ポルカのワッハッハ』が演奏され、喜びと感動のうちに、コンサートは終了しました。

午後の部 子供向け(5歳~)

「夢いっぱいコンサート」

しまざきまさこさんの曲紹介があり、フィドルファードルでスタート。『四季より春の第1楽章』など名曲が次々と演奏され、午前の部と同じように各楽器の紹介と続けました。

中盤は、楽器体験コーナー。しまざきさんから、「ヴァイオリンの未経験者にヴァイオリンソロのところを演奏してもらいます、希望者はいますか?」の問いかけに会場の子供達のほとんどが、大きな声とともに元気よく手を挙げ、これには聞いた本人もびっくり、「本当にヴァイオリンは未経験ですか?」の問いかけにも、大きな声で「ハイ」と返事。その中から、2名の女の子(小学4年の橋本かおりさんと1年の今別府幸芽さん)が選ばれステージへ。大勢の観客の見守る中、ヴァイオリン奏者から直接指導を何度も何度も受け、いよいよ一人ずつオーケストラとともに演奏開始、初めてのヴァイオリン、しかもソロを担当するとあって緊張の様子。会場も自分のことのように緊張、手を合わせているお母さんもあちこちに見られ、ついにソロのところがきた!ノコギリ音が出るのかと心配していた会場もビックリ、きれいなヴァイオリンの音色でソロをバッチリと決め、会場は拍手喝采の嵐、そして二人とも大成功!プロの指導のすごさと技術にも感動し『楽器体験コーナー』は成功のうちに終了。

次は、ラッパ奏者3名が竹ボーキをもって掃除しながら、ステージ中央へ。オーケストラが『ウィリアムテル序曲』の演奏を始めた、なのに3名はまだ掃除中。曲がラッパのパートにきたまさにその瞬間、竹ボーキを口にもっていった3名が演奏開始！ボーキなのにラッパの音がでて会場は何が起こったのか、戸惑っていましたが、これこそ一流の奏者だからできるスゴ技だったのです。竹ボーキの柄のところの節を取り、音が出るようにしたとのことでしたが、まさにプロの技。

次の曲は、小学校の音楽の授業で習うリコーダーも参加しての名曲『コンドルは飛んでゆく』。リコーダーは子ども達も吹ける楽器とあって、そのすばらしさを再認識したとの声を多くの子ども達から聞くことができました。

フィナーレは、しまぎきさん(ソプラノ)の歌で、ドレミのうた(『サウンドオブミュージック』より)、会場も一緒に合唱し午前の部同様に、興奮と感動のうちにコンサートは終了しました。

来場された、お客様にインタビューしました。

国分の比良さんは1歳の那奈加ちゃんと  
お2二人で。

・・・このコンサートはどこで知りましたか？・・・

市民文化ホールのピアノコンサートで知りました。未就学児と一緒にコンサートの生演奏を聴ける機会はないので、今日は楽しみにしていました。いつもは、CDで聴いているので、生の演奏を子どもに楽しませたい、子どもの心に響けば良いし、情操教育にも大変良い。

・・・クラシック音楽に興味はありましたか？・・・

夫婦で、吹奏楽団に入っているし、ボランティアで慰問演奏もしています。子どもにどうしても、本物の演奏を聴かせたかったと笑顔で客席に向かわれました。

出水市から吉原道子さんは、お孫さんの  
岩下あやねちゃん(4歳)とお2人で。

コンサート終了後にインタビューしました。

・・・コンサートはどうでした・・・

このコンサートを知り即電話で申し込みました。生の演奏を孫にどうしても聴かせたかった、色々なコンサートには出掛けて行きますが未就学児も一緒に聴ける機会がないので小さい頃から音楽に親しむことは子ども達を伸ばしていくためにもいいこと。

自分の耳で、いい音楽を聴くことは情操教育にも

良いと思っている、そして本物を聴くことによって色々なものを学んでいく。聴く態度からマナーが身に付いていく。

こういう機会を大人が潰しているのかもしれない、未就学児も本物を学ぶことができる環境をつくってほしい。今日は孫が目を輝かして聴いていました。来て良かった。宝山ホールには感謝しています。これからもこういうコンサートを企画してください。

宝山ホールが意図していたことを、ご理解いただきありがとうございます。これからも文化事業を通して県民の皆様に貢献できるように努力を続けます。



比良さん親子



吉原さんとお孫さん

船間憲一さん(59歳)は娘さんお2人、

お孫さん5人の8人でご来場されました。

・・・このコンサートはどこで知りましたか？・・・

協賛している、南日本銀行のアップルシートの抽選に当選しました。親として、子や孫に生の演奏を聴かせてやりたかった、子どもが小さいと母親もコンサートなど外出ができない、今回は子どもも親と一緒に楽しめると云う事でどうしても来たかった、初めてのクラシックコンサートですが、孫の心に響くものが必ずあると思います。

・・・コンサート終了後に感想を聞きました・・・

『良かった』、言葉で言ってもわからないことが、本物は体で覚えていてくれていると思います。娘さんの、日高美和さんは、子どもには丁度良い時間だったのでぐずることなく、フィナーレの曲が好きな曲で、子ども達が喜んでいたので良かった、こういう機会があればまた来たい。



仲のよさが印象に残るご家族でした。次の機会にもご来場お待ちしております。

楽器体験コーナーで、初めてヴァイオリンの演奏体験をしたお2人に感想を聞きました。

橋本かおりちゃんは、お母さんと弟の翔太君と3人で薩摩川内市から来られました。

「初めて触るヴァイオリンで不安がありましたが、教えてくれたお姉さんがやさしく、丁寧に指導してくれたので良かったです。」

「大勢のお客様の前で緊張しましたが、うまくできてよかったです。いい思い出ができました。」と笑顔で語ってくれました。

お母さんは、「クラシックコンサートは堅苦しいと思っていましたが、子どもがどうしても行きたいと言うので来ました、生演奏はすばらしく演出も良く楽しかった、来てよかった、子どもが思いもしなかった体験もでき、さらに音楽に興味をもったことと思います。」

今別府幸芽ちゃんは、お母さんと始良町から。

大勢のお客様の前で、演奏でき楽しかったと話してくれました。コンサートの終了後、京都フィルハーモニー室内合奏団のメンバー全員のサインが入った色紙と、今日の司会をされたソプラノ歌手のしまざきまさこさんと記念写真を撮ってもらい、喜びでいっぱいの子供ちゃんでした。



記念の色紙を手にかおりちゃん



しまざきさんと幸芽ちゃん

今回は初めて、  
出演者にインタビューできました。  
京都フィルハーモニー室内合奏団  
ソプラノ歌手

しまざきまさこ さん



・・・初めて宝山ホールでの  
演奏会でしたが、  
午前の部が終わって  
鹿児島のファンの印象は？・・・

反応がすごく良かったですね、皆さん入場時にマラカスをもらい、公演開始前は、ロビーとホール内は、マラカスの音でうるさかったのですが、公演が始まり、司会の私がマラカスを使用するまでは、手から離してバッグの中か、席の下に置いて演奏中はマラカスの音はださないようにねとお願いしたら、全員言うことをきいてくれました。0歳からの子供たちが中心のコンサートであることを思うと、これはすごいことです。1人もマラカスの音をださず、集中して演奏を聴いてくれました。集中していますからここは笑ってほしいと思う場面では笑ってくれました。こんなにあったかいコンサートはあまりありません。子ども達のマラカスとオーケストラのコラボレーションも大成功しよかったですね。子ども達の輝く瞳に私達も元気をもらいました、ありがとうございました。

### 京フィル 小林明理事長



『こどもの日』にちなみ、ステージ奥には大きな鯉のぼり、マラカスの準備と大変だったと思いましたが、全てが準備万端で感謝しています。子どもの時に、いいものを見たり、いいものを聴いたりすることは、非常に良い。宝山ホールの今回の企画は素晴らしいことです。クラシックコンサート活動している者にとって、子ども達に本物を知ってもらい、20年後にもその子ども達が音楽に興味をもってもらっていたら嬉しいですね。



・・・今回のコンサートには、  
15人のボランティアスタッフも  
参加していたのですが？・・・

すごくいい、他県にはない。真剣に取り組んでくれて感謝しています。

他県でもボランティアスタッフがいる会場もありますが、ほとんどお客様状態になっています。宝山ホールのボランティアスタッフは質が違いました。

こういう機会をもっと増やしてくれると子ども達の学習意欲の向上、情操教育にも役立つと思います。

貴重な休憩時間を割いて、インタビューに応じてくれたお2人に感謝します。

京都フィルハーモニー室内合奏団の益々のご活躍をご祈念いたします。



コンサート終了後のロビー、合奏団メンバーとふれあいました

今年度から新しく宝山ホール公演ボランティアスタッフになり、初めて公演に参加されたスタッフに感想を聞きました。

今回のスタッフは15名、この内7名が新スタッフでした。

南さん・・・最初はドキドキしていましたが、職員の方の指示等が適切でスムーズに雰囲気になれました。一言で言えば楽しかったです。これからはボランティアスタッフとして頑張ります。

堀切さん・・・今までは、観客として来ていましたが、ボランティアスタッフの方が細かいところまで気を使っておられることを初めて知りました。ボランティアスタッフ同士すぐ溶け込むことができる雰囲気が非常に良かったです。

久永さん・・・ドア入口を担当しましたが、ドアの重たさにビックリ、音響のこともあるのでしょうか。もう少し仕事をしたかったです。楽しいし、いつでも呼んでもらったら参加します。今日は子ども達の笑顔が良かったですね、お客様が楽しんでくれてよかった。お手伝いができてよかったと思う瞬間ですね。

3人とも明るく、これからはボランティアスタッフとしてのご活躍を期待しています。

3月9日（日）

「人形浄瑠璃文楽」



場所：かごしま県民交流センター

人形浄瑠璃 文楽の公演が、昼夜2回催されました。『世界無形遺産』の『人形浄瑠璃 文楽』とあってホールは満席、鹿児島多くのファンで大盛況でした。

昼の部・夜の部の演目は違いましたが、上演前に文楽人形の操作方法、演目の内容・見所等を、判り易く、丁寧に、説明・解説があり、お客様も十分に『人形浄瑠璃 文楽』を楽しまれ『良かった』、『文楽の良さを再認識した』等、多くの感謝の言葉をいただきました。

今回の公演は、10代・20代のお客様も多く、日本の伝統古典芸能が老若男女を問わず親しまれていることがわかりました。また宝山ホールの自主文化事業が鹿児島の文化人育成にも寄与しているのを実感した1日でした。



解説場面

文楽 上演中

宝山ホールボランティアスタッフの二本松美保さんは、クロークを担当する機会が多く、今回はかごしま県民交流センターと場所も変わり、宝山ホールとの違い等をお聞きしました。

・・・クロークの場所について・・・

宝山ホールのクロークは、ホール入口の正面にありお客様にわかり易く、預けていかれるお客様も多いのですが、県民交流センターはロビーの一番端にあり分かりずらかったかもしれませんね。

・・・作業面は・・・

お預かりする場所は、受付と共有のオープンプラアになっており効率よく作業はできますが、オープンプラアのためお客様から預かり、保管するまでの一連の行動が丸見えのため緊張はしますね。高価なコートなどは特に気を使いました。

預かった物が、誰からもまる見えのため、盗難防止のためにも一時もその場を離れることができません

ん。

宝山ホールは受付と、保管する場所の間に壁があり、関係者以外の人目に触れることはありません。

・・・他に感じたことは・・・

クロークがロビーの奥にありますので、他のボランティアスタッフの動きが全くわからなくて、忙しく動き回る職員・ボランティアスタッフの方が今何をしているのか把握できず、いろいろと協力できなかったことが残念ですね。

宝山ホールは、プログラム売場も横にあり、お客様の反応もわかり、ボランティアスタッフの活気も直に伝わり、自分もヤル気がでますよね。

宝山ホールの自主文化事業の成功を願い、これからもボランティアスタッフの一員として、微力ではありますが、貢献していきたいと思います。

明るくインタビューに応じてくださった、二本松美保さんは、いつも明るい笑顔でまわりを癒してくださいませ。これからも宝山ホールボランティアスタッフとしてのご活躍を期待しています。

(取材 広報ボランティアスタッフ 四十住孝行)

宝山ホール広報ボランティア「語りもんそ」編集部  
〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール

099-223-4221 FAX 099-223-2503